

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第5回） 会議録

日時	令和元年10月25日（金） 午前10時00分～11時30分
場所	エコ計画浦和ビル 3階西会議室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計7名 内田奈芳美／岡本祐輝／齋藤友之／作山康／永沢映／長野基／宮本恭嗣 〔事務局〕さいたま市 都市経営戦略部：田中副参事／前主幹／新井主査／松本主査／大塚主任／玉置技師／篠田主事 〔傍聴者〕計0名
欠席者	〔委員〕計5名 柏木恵／佐藤徹／平林紀子／子吉亮／松山麻衣
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）さいたま市総合振興計画審議会第3回総会における意見等への対応 （2）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 資料1：さいたま市総合振興計画審議会第3回総会における委員意見について ・ 資料2：さいたま市総合振興計画審議会第3回総会后における事務局意見について ・ 参考資料1：さいたま市次期総合振興計画（案）（さいたま市総合振興計画審議会第3回総会配付資料）
問い合わせ先	都市戦略本部 都市経営戦略部 電話 048-829-1035

1 開会

2 定足数の報告

○司会 ただ今からさいたま市総合振興計画審議会第5回第1部会を開催いたします。
それでは定足数の確認を行います。さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本部会の出席委員は、委員総数12名に対し7名となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

○司会 それでは、次に配付資料の確認をさせていただきます。
(配付資料の確認)

○司会 なお、現在のところ、傍聴希望者はいらっしゃいません。
また、本部会につきましては、会議録を作成するための録音、記録のための写真撮影を行わせていただきます。会議録につきましては、各委員にご確認いただいた後、部会長の承認を以って確定いたします。公開となる会議の会議録は、各区情報公開コーナーと市のホームページで公表する予定となっておりますので、あらかじめご承知ください。
それでは、以降、部会長に議事進行をお願いいたします。

○部会長 それでは、議事進行を務めさせていただきます。はじめに、会議の公開と傍聴の許可について諮りたいと思います。本日の会議を公開とし、傍聴を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○部会長 ご異議がないようですので、本日の会議は公開したいと思います。

3 議題

○部会長 これより議題に入らせていただきます。議題1「さいたま市総合振興計画審議会第3回総会における意見等への対応」について、事務局から説明をお願いします。

(1) さいたま市総合振興計画審議会第3回総会における意見等への対応

(資料1、2に基づき、「さいたま市総合振興計画審議会第3回総会における意見等への対応」について事務局から説明)

○部会長 ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等はございますか。

○内田委員 資料1の項番5について意見があります。エリアマネジメントは、ボランティアも大切ですが、企業、行政、地元の商業主等が資源を持ち合い、専門の人間を雇用し、専門的な見地を生かしながら行うことが大切と考えています。エリアマネジメントを進める際に、(2)背景の第2段落に記載されているように、市民活動と連動、地元のボランティア団体と協力して進めるのは大切ですが、基本的には専門家の参加が必要だと考えています。

また、資料1の項番7については、「未来技術」の定義の中で使用している Society5.0 について、計画書の中で記載があったか疑問です。未来とか新時代等の文言が記述されていますが、具体的なキーワードをもっと強調するべきだと思います。

○事務局 「未来技術」については、用語の定義を記載したいと思います。また、計画書の13頁で Society5.0 について記載しております。エリアマネジメントの記載については、ご意見を踏まえて、専門家の必要性について追記を検討します。

○内田委員 「未来技術」が Society5.0 と連動しているということで、用語の使い分けをするのであれば、重点ポイントで記載するべきだと思います。また、エリアマネジメントの(2)背景の2段落目は市民活動の推進施策に関する記述に見えるので、この部分で記載する意図はわかりません。

○事務局 地元の方もまちを育てていくという意識が必要という趣旨で記載しましたが、ご意見を踏まえて修正を検討します。

○部会長 エリアマネジメントはマネジメントに重点が置かれてしまいましたが、行政が得意ではないプロモーションとプロデュースが大切になります。専門家がいてプロモーションとプロデュースをすることで創造的なものが生み出され、イメージを向上させる

ことがエリアマネジメントでは重要です。

○内田委員 資料1の項番4について、さいたま市では、立地適正化計画を策定する予定はあるのでしょうか。

○事務局 所管である都市局に確認したところ、立地適正化計画を策定する方向で、一度話が進んだ経緯はあります。しかし、さいたま市がある程度コンパクト化されているという現状があるので、計画を策定する必要があるかどうかも含めて検討している段階という回答でした。

○部会長 立地適正化計画がないと、補助事業の実施に当たって国から交付金がもらえなかったと思います。策定に向けて取り組まないと後で困る気がします。

○長野委員 参考資料1の42頁、43頁に記載の図の矢印がよくわかりません。実施計画の矢印の意味は何でしょうか。また、各区のまちづくりのポイントごとに事業をリストアップし、地域別の進行管理をしていくという話は、どこにどのような記載がされるのでしょうか。最後に指標の話ですが、3つの指標の具体的な運用と、各部局の個別計画の進行管理とはどういった関係になるのでしょうか。

○事務局 図に記載の矢印は、実施計画を毎年度見直していくイメージで作成しております。2点目の地域別の進行管理については、計画書の参考として記載する予定でございます。3点目は、総合振興計画に沿って個別計画を策定しておりますので、これらを一体的に進行管理していく仕組みを構築することを検討していきます。

○永沢委員 将来都市像で記載していたシビックプライドは消去されたのでしょうか。

○事務局 シビックプライドの文言は、誇りを感じるという表現に変更しました。また、上質な生活の中にも説明を盛り込ませていただきました。

○永沢委員 災害に強いという記載についてですが、台風第19号と同規模の台風が来年、再来年も到来するということも考えられます。人命に関わる部分なので先日の災害を踏まえた記述を盛り込んだ方がよいと思います。また、SDGsに関連した国際的な部分、外国人向けの観光の記載が少なくなっている印象を受けます。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後の観光産業について記載した方がよいと思います。SDGsを含めて考えると、現状は内向的な表現が使われている印象を受け、国際化だけでなく10年間の時代の変化を勘案して記載する必要があると思います。

○部会長 確かに SDGs はグローバル戦略として必要にも関わらず、現状は狭い視野で捉えられているように思えます。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とも関わりますが、時代の変化を意識するという点で、進行管理に記載されている PDCA は、成果が上がるのが確実な事業が前提なので、新しい事業にはなかなかトライできない現状があります。新しい時代に求められる実験的な産業には OODA（ウーダ）で回す考え方も少しは必要だと思います。また、時代変化に応じて従来の産業を誘致するだけでなく、クリエイティブ産業をどう誘致するか考えて、新しい産業を応援できるようなさいたま市になってほしいと思います。

○長野委員 以前の第1部会で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を次期総合振興計画の中に包含するとの話もありましたが、どういった文言を入れるかお聞きしたいです。

○事務局 本市の総合戦略は令和3年度からの新しい戦略を作る予定でございます。次期総合戦略を策定するに当たっては、12月に国の総合戦略が策定される想定でございますので、それを勘案して、次期総合振興計画における重点戦略との関係性も含めて、本市の総合戦略について検討したいと思っております。

○宮本委員 エリアマネジメントについて維持管理だけではなく、プロデュースがないといけません。プロデュースがないと、何も空間を維持管理するということになるので、「エリアプロデュース&マネジメント」といった表現で明記してもいいと思います。

また、参考資料1の26頁の「さいたま市の課題」で財政の問題が記載されていないのはなぜでしょうか。今後の少子高齢化や人口減少に伴って税収は減っていくと思います。公共施設マネジメントに関しても半分は維持できないので、エリアマネジメントや財政に関わってくる問題だと思います。個人的には、地域経済循環率の低さが問題で、RESAS（リーサス）で見ると、さいたま市は地域経済循環率が90%以下でした。金額では7000億円くらい流失していくことになります。市民が稼いだお金を内部で循環することは大切な話だと思いますので、課題を整理してほしいと思います。

○部会長 キャッチコピーとして「エリアプロデュース&マネジメント」はよいと思います。さいたま市らしいキャッチコピーを提案してほしいと思います。

○岡本委員 将来都市構造の章にエリアマネジメントの内容を記載するのではあれば、都心及び副都心において先進的にやっていくという内容のみを記載すればよくて、エリアマネジメントの一般論については、別の章で記載した方がよいのではないのでしょうか。

また、言葉の使い方が計画書全体を通して不一致な箇所があるので、文言の整理をする必要があると思います。

○部会長 時代変化に伴って、歌手と同じようにまちづくりもプロデュースが重要になります。特徴が無いまちでもプロデュース次第で変化します。マネジメントは、流れていくだけです。最終目標は市民自治ですが、途中目標も重要だと思います。

○内田委員 参考資料1にUDCMiが記載されているので、同様にUDCOも記載した方がよいと思います。

○事務局 文言の追記を検討させていただきます。

(2) その他

(参考資料「将来都市構造のイメージ図」について事務局より説明)

○岡本委員 現状の3つのスケール図案には含まれていない観点として、埼玉県内の中でさいたま市のポジショニングをどう表現するか気になります。直接的な交通接続性は薄い秩父地域との関係も、荒川上流の水源地との繋がり等において施策連携の可能性はあると思われます。

○部会長 2つ目のスケールの図は必要でしょうか。基本形はこれでよいと思いますが、現状はアイコンを配置しているだけなので、例えばグリーンインフラを単に緑の線で示すのではなく、アーティスティックな発想を取り入れて表現してほしいと思います。

○内田委員 1つ目のスケール図で、岩槻駅周辺地区は岩槻としての拠点性があるため、他の副都心と同様に、都心機能の補完ということで矢印が示されているのは違和感があります。2つ目のスケール図は、高崎、春日部、川越、池袋など具体的にどこにつながっているかわかるように見せてはどうでしょうか。

○事務局 機能補完という意味で矢印を示しております。表現については検討したいと思います。

○長野委員 他都市との競争性を示すのであれば、具体的に都市再生緊急整備地域のエリアをプロットしてはいかがでしょうか。一方、こうあってほしいという想定を図で示すのであれば、総合振興計画によって具体的に実現する価値を書き込んでみてはいかが

でしょうか。

○部会長 ヨーロッパは100万人都市圏で考えております。東北・北陸・北関東の都市圏を描き、その中心にさいたま市があるような表現にした方が良いと思います。

○宮本委員 総合振興計画の中でも特に重要な図だと思うので、デザイナーを入れた方がよいと思います。楕円や線の太さなど表現の意図を汲んで丁寧に描くことと、1枚目と2枚目のスケール図の間に位置づけられる春日部などの都市との関係性も考える必要があると思います。また、現状の都市構造が記載されていると感じ、10年後を意識した将来像で表現されていないと感じます。

○部会長 10年後を意識して、高速道路の延伸などの表現があればよいと思います。

○永沢委員 道路・空港・路線について、3枚目のスケール図にそれぞれ適当な記載をしてほしいです。また、デザインをすると図が複雑になるので、ユニバーサルデザインを意識することや、白黒でコピーを取ってもわかりやすい図に表現できればいいと思います。

○事務局 いただいたご意見等を部会長、副部長、事務局で整理し、必要な修正を行ってまいります。対応結果につきましては、本来、本部会で皆様にお示しするべきところですが、部会長、副部長、事務局により対応結果をまとめさせていただき、答申案について、調整部会において検討してまいりたいと思います。

続きまして、今後の審議会の予定について、ご案内いたします。第4回総会についてですが、11月7日（木）午前9時から10時半での開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

○部会長 以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思います。委員の皆様のご協力により、円滑な議事進行ができましたことにお礼申し上げます。

4 閉会

以上